

[dōnk]

DONC どんく

発行
三重日仏協会
 ASSOCIATION
 FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒590 津市東丸之内町21-4 オーデンビル
 2F / Siège 642 Building 21-4 Higashi-
 Kusanouchi Ten JAPON 59092 (24) 3158

N° 005

1^{er} JUIN

ASSOCIATION FRANCO-JAPONAISE DE MIE

== Avec tout le monde ==

パリ祭パーティー 7月17日(日)

== Bonne soirée ! ==

今年も三重日仏協会では「パリ祭パーティー」を開催します。

昨年の第1回パーティーには、会員や会員外の人など約50人が参加。フランス人のゲストによるお話、各国のワインの利き酒コンテスト、フランス革命に関するクイズなども行われ、楽しいパーティーとなりました。

今年もスタッフでフランスにちなんだ色々な企画を計画中、皆さんの参加をお待ちしています。

- * 時間 PM 4:00 ~ 7:00
- * 会場 洞津会館 Tel.0592(27)3291

(近鉄津新町駅からすぐ)

* 会費 5,000円

なお当日は、津リージョンプラザで、名匠トリュフォーの秀作「恋のエチュード」が上映されます。パーティーと併せて、この日一日、どっぷりとフランスにつかってみてはいかがでしょうか。

- * 恋のエチュード 10:20~, 2:40~ 7:00~。 (同時上映は * ミリィ 12:40~, 5:00~)
- * 前売券 1,000円。 当日 1,300円。
- * 問い合わせ 津シネマフレンズ Tel.0592(27)3569

パリ祭 Le 14 Juillet 火

映画「Le 14 Juillet」が日本に輸入された際、「パリ祭」という邦題がつけられ大ヒットしたことから、日本では7月14日はこの名で親しまれていますが、フランスでは1789年、パリの民衆がバステューユ牢獄を開放し、フランス大革命の口火を切った記念すべき大祝祭日です。パリでは、前夜13日から15日にかけて、小さな広場や通りで夜通し踊りの宴が繰り広げられ、花火、軍隊のパレードが催されます。しかし近年、この日を境にヴァカンスへの大移動も始まり、街をにぎわす大半は観光客や外国人になって、古き良き時代のパリ祭の姿は今日のパリから消えつつあるようです。

6月30日までに、出欠のお返事を！！

私と仏蘭西（フランス）①

協会専務理事の藤田謹司氏（耳鼻科医）が会員で友人の大池喜代志氏と昨年の暮れから新年にかけ、フランス国内を旅行されました。最新の情報と旅行体験を、お届けします……。

暖かい冬のパリ

フランスも日本と同様、暖冬だった。パリではコートもいらすピレネー山ろくは日中は汗ばむほど。今回、同行した大池さんとは十五年ほど前に名古屋市内の、あるフランス語学校で机を並べた仲で、それから時々ことばの現地訓練？のため一諸に出かけている。

昨今のパリの変わり様は目覚ましい。その最たるものは古い駅を改装したと言うセーヌ河岸のオルセー美術館であろう。ジスカルデスタン（前大統領）の肝入りで出来た。旧印象派美術館の作品を主に展示しているが、内部の様子が一風変わっていた。最上階の印象派の展示室は大変な混雑ぶり。自然光がたっぷり入るよう工夫されている。美術館づくりに指揮を取ったイタリア人女性建築家アウレンティの説明によれば「光こそが印象主義なのだから、画家の体験した同じ光、同じ雨の降るところで自然のままを体験して欲しい」というわけだ。まあ、それなりに結構なことではあるが、絵画作品の傷みはないのか心配になった。

ルーブルの中庭には既にピラミッドが骨格を現わし、マンハッタンを思わせるビルの立ち並ぶデファンスでは凱旋門を模した巨大なアーチ型の建造物がツチ音高く建設中だった。

物議を呼んだポンピドーセンターも少しずつパリ市民になじんできたというわけか。古い石造りの町の中に出現しつつあるアブストラクトアートの建物に、私は正直に言って、やはり違和感を感じずにはられない。

ユトリロの描く古き良き時代のモンマルトルや荻須高德の薄汚れた建物の風景こそ我々には旅情を感じさせるところなのだが、パリもまた、生き物、こちらの思うようにはならない。いや、むしろ大いなる古き遺産に満足せず、未来の理想に向かい常に模索し続けるパリの活力に称賛を贈るべきかもしれないのだ。

騒音のシャンゼリゼ

大みそかは、あの広いシャンゼリゼ通りが、どこから集まるのか不思議

義なくらい人また人で身動き出来ないほど。車の騒音（新年を祝うクラクション）と人波にもまれた疲れを残しながら、二人は翌日、パリを去りボルドーへ向かった。

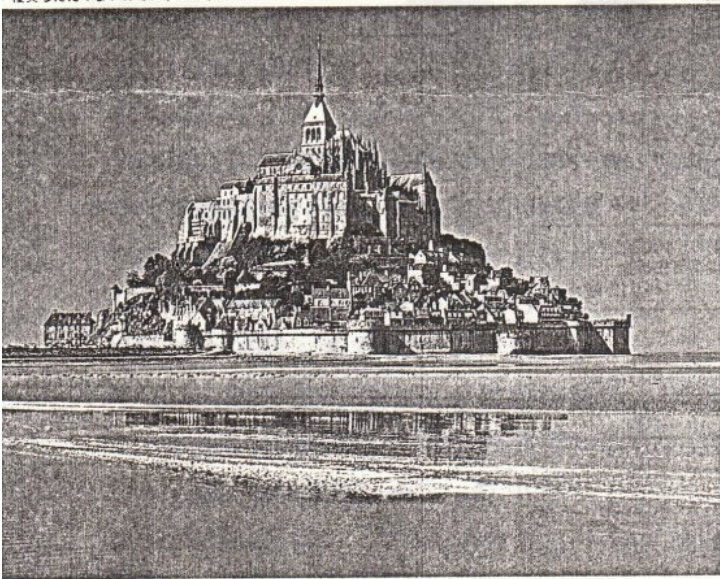
バスクを訪ね

そこからバスク地方に入った。バスク人はピレネー山地の西、大西洋岸のフランス、スペイン両国にまたがって住む。誇り高く、今なお政府の干渉を嫌うというが、駆け足旅行では、その気風にまで触れるところまでいかない。

大西洋岸で最大の保養地ピアリッツで一泊、ささやかながら、その雰囲気にはひたることが出来た。このあたりは鉄道やバスなど公共交通機関の便が悪く、私たちは車を借りてポーまでピレネー山ろくをドライブした。

(次号へ続く)

保養なたづまいのモンサンミッシェル



INFORMATION

★・・5月15日に市民ペタンク大会を津市栄町、栄町公園（ふらんす物語前）で開きます。賞品を多数用意三人でチームをつくり申し込んで。

★・・5月22日（日）に津市敬和公民館でドウッセ夫人を講師にフランス家庭料理講習会を開きます。

問い合わせ申し込みは運営委員の清水真弓さん ☎0592（26）2087へ。

★・・4月28日（木）に日仏会館（東京・神田駿河台）で講演会。木村三郎日大芸術学部教授「ダビットとフランス革命」。

★・・会員の吉田豊さん（二見小教諭3月まで三重大に国内留学）は2月14日から一カ月、欧州旅行を楽しんだ。英国のロンドンからイタリア、フランス、ドイツ、スイスを回り3月14日無事、帰国した。欧州への旅は三回目です。各地の知人、友人宅を訪れ旧交を温めた。

★・・転勤の季節を迎え大岩ゆり記者は2月から朝日新聞東京本社アエラ編集部へ。特ダネ？を追い取材で米国に。創刊号が楽しみだ。同じく畑衆記者（朝日新聞）は名古屋本社経済部（4月1日付）。黒宮正之記者（東海TV）は本社報道部に。新年度会費はいずれも納入済み。近藤正彦日経支局長はテレビ東京へ出向。鈴木善太郎記者（中日新聞）は名古屋本社文化部へ異動した。

映画、LE CINÉMA

★・東京日仏学院フィルムライブラリから、ことしも名作、問題作いろいろの16ミリフランス映画を上映します。入場無料。会員外の映画ファンも誘ってぜひ、ご参加を。英文字幕ですが日本では未公開（劇場）の作品が多く、二度とない機会です。パリの映画館に飛び込んだつもりでフランス映画を味わって下さい。（藤）

5月 13日後5:30～

三重大図書館視聴覚室

15日後3:00～

県立美術館講堂（予定）

「山師トマ」（ジョルジュ・フランジュ監督1965年）力作「顔のない眼」の奇才がコクトーの原作に挑戦した秀作。劇場未公開。85分。

7月 8日後5:30～

三重大図書館視聴覚室

10日（日）後3:00～

県立美術館講堂（予定）

「我らの仲間」（ジュリアン・デビエ監督1936年）フランス映画の30年代の名作。ジャン・ギャバンが出演。1937年に日本で公開されたフィルムとはラストシーンが違う。100分。

9月 16日（金）後5:30～

三重大図書館視聴覚室

18日（日）後3:00～

県立美術館講堂（予定）

「獅子座」（エリック・ロメール監督1959年）トリュフォーなきあとヌーベル・バーグ派でただ一人、気をはくロメール。最近、わが国でも人気が高まってきた名匠の処女作で、ゴダールも出演。劇場未公開、100分。

問い合わせ、見たいフィルムの注文は運営委員の横山さん☎0592(31)1583、勤☎(32)1211図書館または藤田さん☎津西高(25)1361へスケジュールは変更があります。はがきで申し込みのあった人には事前に改めて連絡したいと思いません。

62年度に上映したリスト

「この庭の死」（5月10日）

「捕われた伍長」（6月26日）

「不思議なピクトル氏」（7月1日）

「野獣死すべし」（7月17日）

「女銀行家」「女ともだち」
(7月19日)

「みみずく党」（9月26日）

「血の婚礼」（10月25日）

「高原の情熱」（11月27日）

「大地の愛」（12月20日）

「海の沈黙」（1月30、31日）

★・フランス語入門講座は3月25日から毎週開いてます。4月29日で今回は終わりますが一回ごとに完結のスタイルで飛び込み歓迎。受講料は一回500円の大サービスですよ。問い合わせは運営委員の武田さん☎0592(26)8540へ。時間は毎金曜夜7時～8時オーデンプイルで。